

2022・4

柏の景気情報

令和4（2022）年4月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和4年4月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

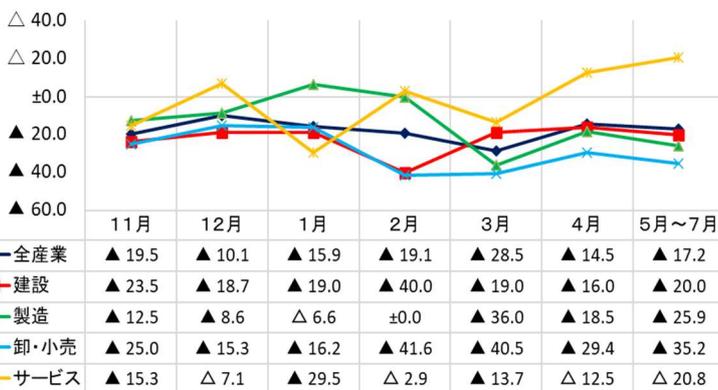
調査期間: 令和4年4月20日～5月6日 調査対象: 柏市内155事業所及び組合にヒアリング、回答数110

全産業DIは4か月ぶりに改善。先行きは原材料、輸送、光熱費等高騰の影響強く、悪化の見通し

4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5(前月水準▲28.5)となり、マイナス幅が14.0ポイント縮小した。

4月はすべての業種でDI値が改善。特にプラスの値まで改善したサービス業及び小売業からは、コロナによる制限がなくなり外出増加についてコメントが寄せられた。また、製造業では受注は好転しつつあるが、各種コストの増加が著しく、価格転嫁が追い付かない様子。先行きDIは▲17.2(今月比▲2.7)と悪化を見込む。収まらないコスト増加、円安の進行など、先行き警戒感を感じる声は多い。

柏の景気情報・産業別業況DI



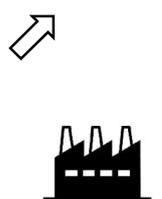
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「人手不足が変わらず、仕事の進捗に影響が出る。数か月前の3、4倍に高騰している資材もあり、利益を大きく圧迫している」とび、「コロナにより人の動きが鈍化し賃貸住宅の原状回復リフォームに影響。一方、中古物件リフォームも、売却不動産の高騰で事業化の目途が立たない業者が多く、苦戦している」(リフォーム工事)、「資材高騰で先行き不透明。受注単価も上がるといいが、入札絡みでは難しい」(管工事業)



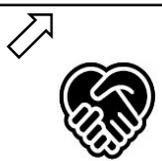
製造業

「海外工場が稼働し始め、ぼつりぼつり医療品容器の発注がかかってきた」(プラスチック加工)、「重点措置の解除で売上は増加傾向だが、原材料や光熱費の増加が大きい」(酒類)、「今年の4月は大型物件があり好成績だが、来月以降の見通しは不透明。仕入部材の値上がり収まらず、競合他社の動向も見ながら価格改定のタイミングを見計らっている」(化学工業)、「3、4月はメーカーが紙の15%値上げを発表。このままでは印刷物の納入に利益が出ない」(印刷)、「主力製品の売上は昨年より好転しているが、原料・光熱費高騰が収益を圧迫」(鉄鋼)、「同居家族がコロナに感染し、濃厚接触者として社員が休むケースが出てきた。リモートで対応できる業務は切り替えたが、製造現場では生産に影響が出ている」(自動車付属品)、「コロナ自粛による士気の低下・営業活動の制限により引合いが減少」(業務用機械器具)、「円安による海外半導体の高騰は収まる気配なし。また、長納期化はさらに悪化の傾向。受注は好調だが売上減が続く」(電子部品等)



卸・小売業

「市内の某観光地で販売している商品が好調」(洋菓子店)、「外出制限がなくなり旅行、お出掛けの意識が強まった結果、衣料は回復傾向。母の日は、「会えないのでプレゼントを贈る」から「会いに行く」にシフトした模様で、配送のフラワーギフトは苦戦。ネットスーパーも利用減」(大型小売店)、「産業資材全体の需要が高まり、供給不足のところへ原材料・加工費全般の値上げはマイナス要因。ただし、前年、前々年度はもちろん、コロナ前よりも本年度の売上は大幅に伸びつつあり、生産の引き締めが行われていない事を好材料と捉えている。ただ、小規模な景気後退に備えて内部留保を高める努力と、新規事業の商品開発、新規販売先の確保に努めている」(繊維卸売)、「売上は増加しているが、コロナで3、4月は欠勤が多く従業員が不足。ウクライナ問題での価格上昇や、上海ロックダウンの影響が意外と大きく、原材料が入らない。6月以降の見通しはかなり厳しそう。円安は業界的には追い風である」(産業機械販売)、「サーモンなど食品原材料の価格高騰が続いている。コロナが落ち着いてきつつあるが、景況感の好転の実感はない。ゴールデンウィークもさほど客足は伸びなかった」(ペット用品小売)



サービス業

「円安の影響は深刻。部材、人件費高騰は厳しい」(ソフトウェア業)、「ようやく体験希望から新規入会の動きが活発になってきた」(学習塾)、「4月も接待や宴会需要は回復せず、平日夜は厳しい状況」(日本料理)、「燃料高騰が利益を圧迫しているが、運賃に転嫁できない状況が続く」(一般貨物自動車運送)、「コロナ収束の見通しが立たない状況が2年半に及び、withコロナにおける地域経済の活性化について検討する場を商工会議所が中心に作ってほしい」(情報処理・提供サービス)、「コロナ制限の緩和と共にイベントが増加し改善している」(室内装飾)、「テレワークが常態化し、お客様との対応もほぼZOOMで、市場状況が掴みにくくなった」(経営コンサル)

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲14.5に対し、「CCI-LOBO」が▲25.7で柏の方がマイナス幅が11.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.5	 ▲ 16.0	 ▲ 18.5	 ▲ 29.4	 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 25.7	 ▲ 27.0	 ▲ 17.0	 ▲ 39.5	 ▲ 21.1
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 7.2	 ▲ 16.0	 ▲ 3.7	 ▲ 11.7	 4.1
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 21.6	 ▲ 1.4	 ▲ 23.6	 ▲ 9.1
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 14.5	 ▲ 20.0	 ▲ 29.6	 ▲ 17.6	 12.5
CCI-LOBO	 ▲ 29.6	 ▲ 32.4	 ▲ 27.7	 ▲ 34.3	 ▲ 29.1
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 68.1	 ▲ 60.0	 ▲ 88.8	 ▲ 70.5	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 71.3	 ▲ 80.8	 ▲ 79.6	 ▲ 63.8	 ▲ 62.1
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.3	 4.0	 18.5	 17.6	 25.0
CCI-LOBO	 16.0	 27.0	 10.9	 11.8	 18.3
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.7	 ▲ 16.0	 ▲ 3.7	 ▲ 26.4	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.1	 ▲ 9.0	 ▲ 14.1	 ▲ 21.7	 ▲ 22.5

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2022年4月13日～19日

調査対象：全国の332商工会議所が2,588企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、活動回復が進み2か月連続の改善。先行きはコスト増への警戒感強く厳しい見方

4月の全産業合計の業況DIは、▲25.7と、前月から+7.0ポイントの改善。日常生活の回復が進み、再開した春のイベントや県民割等の需要喚起策で客足が戻りつつある外食・宿泊関連のサービス業や、堅調な電子部品や飲食品関連等により支えられた製造業で業況が改善した。一方、資材の供給不足や設備機器の納期遅れで工期が長期化する建設業で業況が悪化した。また、業種を問わず、対露制裁や円安の急伸により、原油等の資源価格や原材料価格等の高騰が加速化したことが、収益の圧迫要因となっている。加えて、価格転嫁の遅れも収益回復の足かせとなっており、中小企業の景況は2か月連続で改善しているものの、まん延防止等重点措置が出ていた昨年4月と同水準の回復に止まっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲28.0（今月比▲2.3ポイント）と悪化を見込む。コロナの沈静化による活動回復に加え、大型連休での消費拡大に期待感が高まる一方、感染再拡大を恐れて、観光やイベント参加を控える動きを懸念する声が寄せられている。また、ウクライナ危機の長期化、原材料・資源価格等の高騰や円安が今後も進行することへの不安感は拭えず、さらなるコスト増の警戒感も強く、先行きは厳しい見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業は悪化、その他の業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「石油関連製品やアスファルト資材、燃料等の価格高騰のスピードが速く、価格転嫁が追い付いていない。見積りから施工の間に

資材の単価が上昇するため、安易に仕事を請け負えない状況（建設工事業）、「サプライチェーンの停滞によって、製品や原材料の不足・高騰が続いている。受注に至った工事の工期遅れや採算割れが危惧される」（管工事業）

【製造業】「小麦等の原材料や資材などすべての仕入れにおいて値上げが続いているものの、4月から受注が伸びてきている」（パン・菓子製造業）、「新規得意先確保努力によって売上高は前年並みに近づいてきたが、原材料価格等の高騰が収益を悪化させている。商品価格に転嫁しているが、希望価格までの転嫁は行えていない」（水産食料品製造業）

【卸売業】「主力製品の受注数は伸びているが、売上比率の低い製品の回復が遅れている。主力製品の需要減少に備え、新市場への拡大を検討している」（繊維品卸売業）、「販売価格は上がっているが、物資や燃料費の値上げなどのコストを吸収しきれない。働き方改革への対応にも追われている」（穀物類卸売業）

【小売業】「水道光熱費の高騰、価格転嫁対策の影響は大きいものの、売上・業況は好転。店舗の計画的なリモデルオーブンも奏効した」（百貨店）、「ゴールデンウィークでの帰省や行楽客の増加による好転を見込んでいるが、原油等の資源価格や仕入コスト増による収益悪化を懸念する」（総合スーパー）

【サービス業】「感染拡大前の水準に戻るには、まだ時間がかかるが、需要喚起策等もあり客足は回復基調。会議や懇親会もまん延防止等重点措置の解除に伴い、わずかだが上向き傾向にある」（宿泊業）、「年度変わりでの流れもやや活発になっており、売上が回復傾向。引き続き感染対策の徹底を継続していく」（飲食店）

全国・産業別業況DIの推移

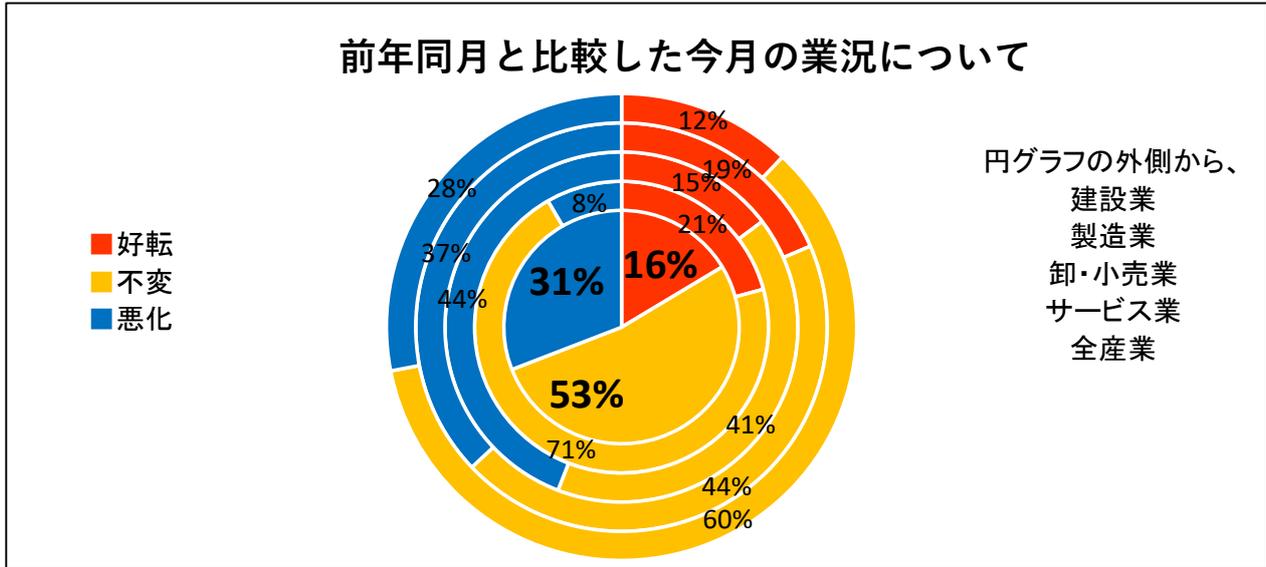
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲21.1	▲18.2	▲13.7	▲20.8	▲35.2	▲18.9
12月	▲15.8	▲16.3	▲9.3	▲11.6	▲30.0	▲12.5
1月	▲18.2	▲21.5	▲6.9	▲18.1	▲26.7	▲20.4
2月	▲33.9	▲22.9	▲21.1	▲38.2	▲43.8	▲43.2
3月	▲32.7	▲23.6	▲25.0	▲33.3	▲40.9	▲39.0
4月	▲25.7	▲27.0	▲17.0	▲28.3	▲39.5	▲21.1
見通し	▲28.0	▲26.1	▲26.3	▲29.5	▲38.1	▲22.1

令和4年（2022年）4月の動向

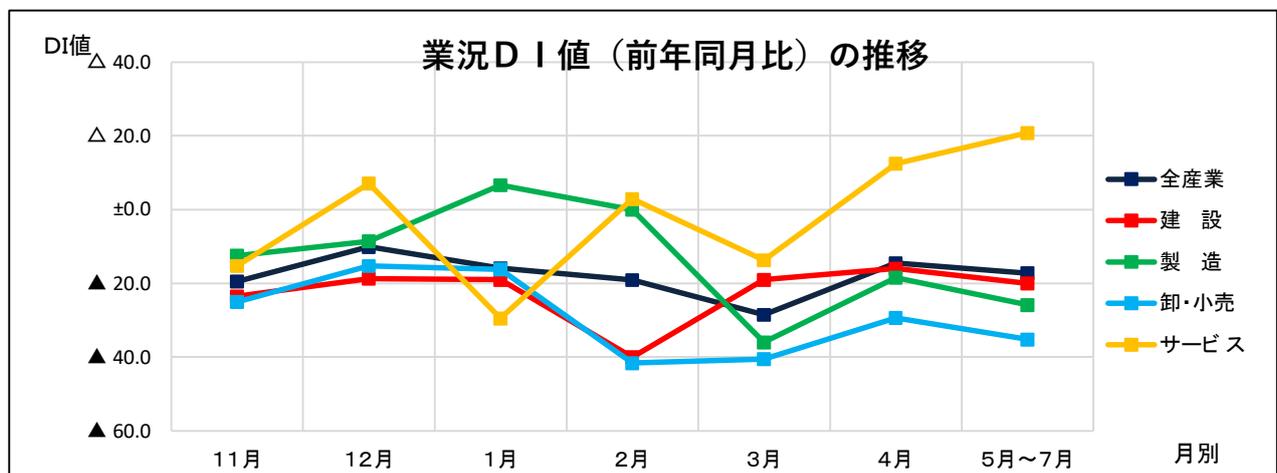
【業況について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5（前月水準▲28.5）となり、マイナス幅が14.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲17.2（前月水準▲15.1）となり、マイナス幅が2.1ポイント拡大する見通しである。



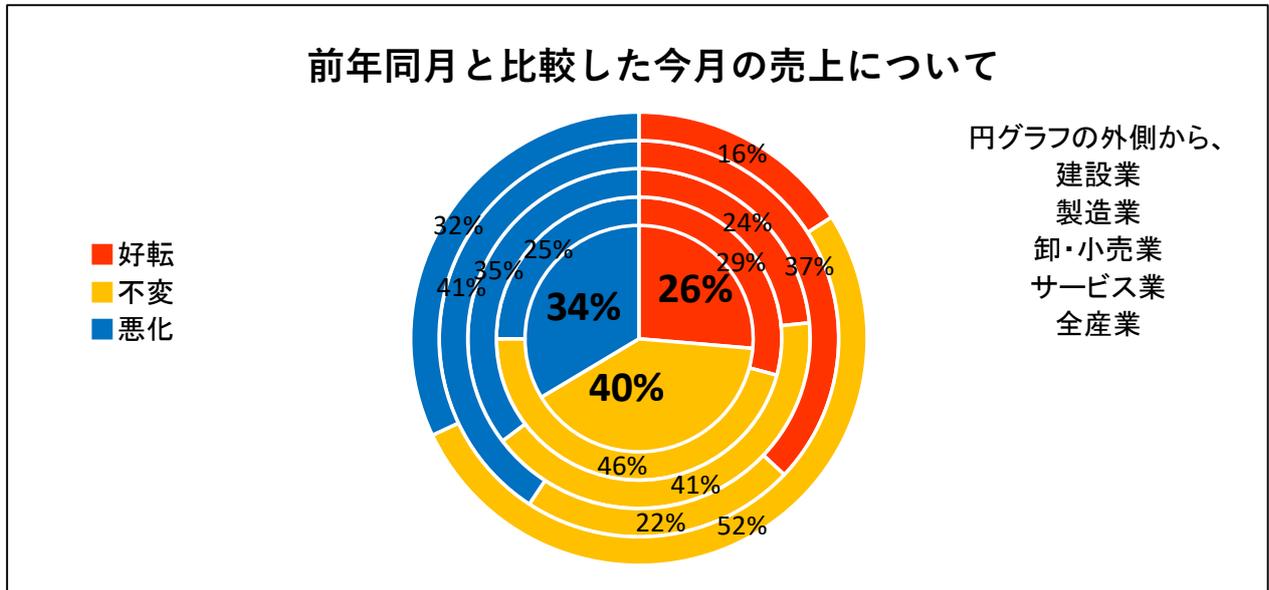
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月～7月（4月～6月）
全産業	▲19.5	▲10.1	▲15.9	▲19.1	▲28.5	▲14.5	▲17.2（▲15.1）
建設	▲23.5	▲18.7	▲19.0	▲40.0	▲19.0	▲16.0	▲20.0（▲14.2）
製造	▲12.5	▲8.6	△6.6	±0.0	▲36.0	▲18.5	▲25.9（▲32.0）
卸・小売	▲25.0	▲15.3	▲16.2	▲41.6	▲40.5	▲29.4	▲35.2（▲29.7）
サービス	▲15.3	△7.1	▲29.5	△2.9	▲13.7	△12.5	△20.8（△17.2）



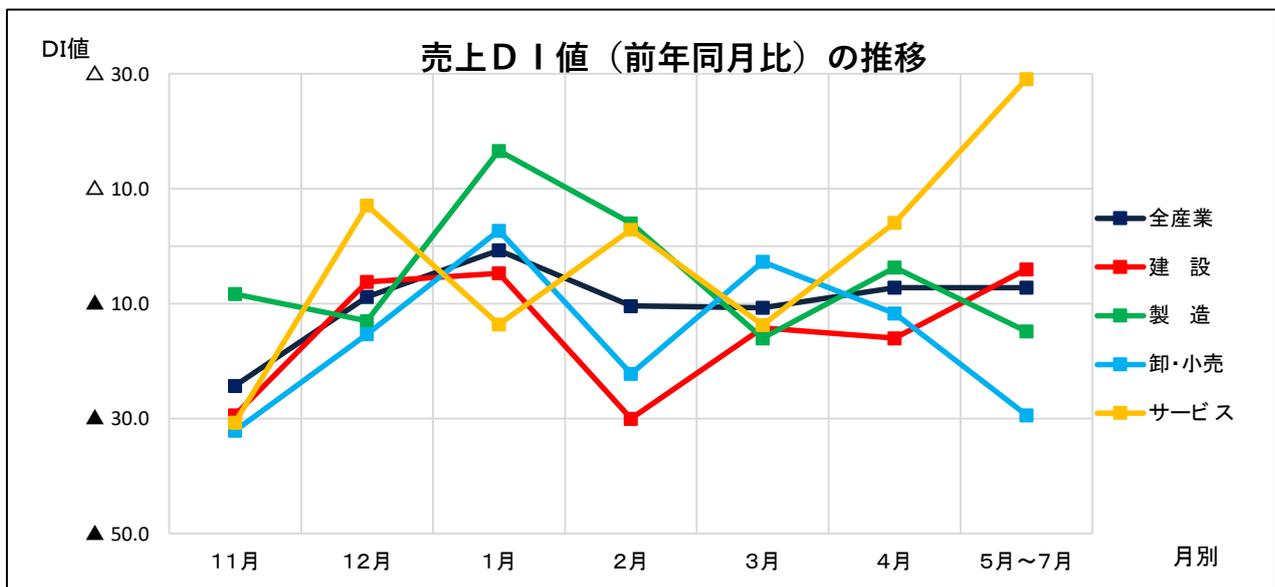
【売上について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲7.2(前月水準▲10.7)となり、マイナス幅が3.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.2(前月水準▲7.1)となり、マイナス幅が0.1ポイント拡大する見通しである。



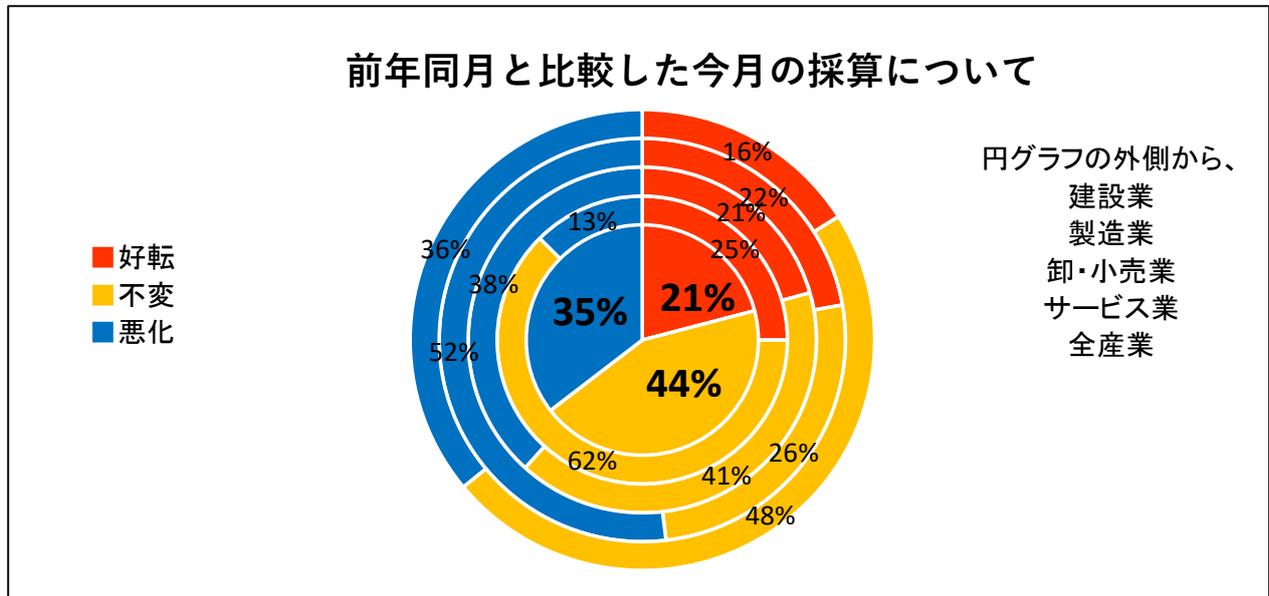
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲24.3	▲8.8	▲0.7	▲10.4	▲10.7	▲7.2	▲7.2(▲7.1)
建設	▲29.4	▲6.2	▲4.7	▲30.0	▲14.2	▲16.0	▲4.0(▲9.5)
製造	▲8.3	▲13.0	△16.6	△4.0	▲16.0	▲3.7	▲14.8(▲16.0)
卸・小売	▲32.1	▲15.3	△2.7	▲22.2	▲2.7	▲11.7	▲29.4(▲13.5)
サービス	▲30.7	△7.1	▲13.6	△2.9	▲13.7	△4.1	△29.1(△10.3)



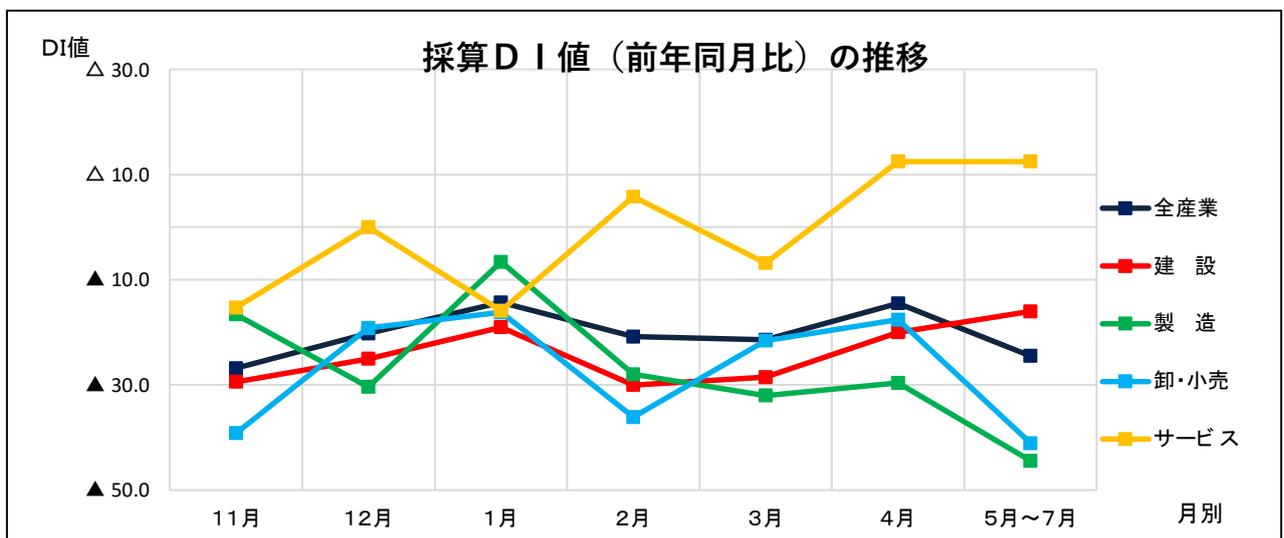
【採算について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲14.5(前月水準▲21.4)となり、マイナス幅が6.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.5(前月水準▲19.6)であり、マイナス幅が4.9ポイント拡大する見通しである。



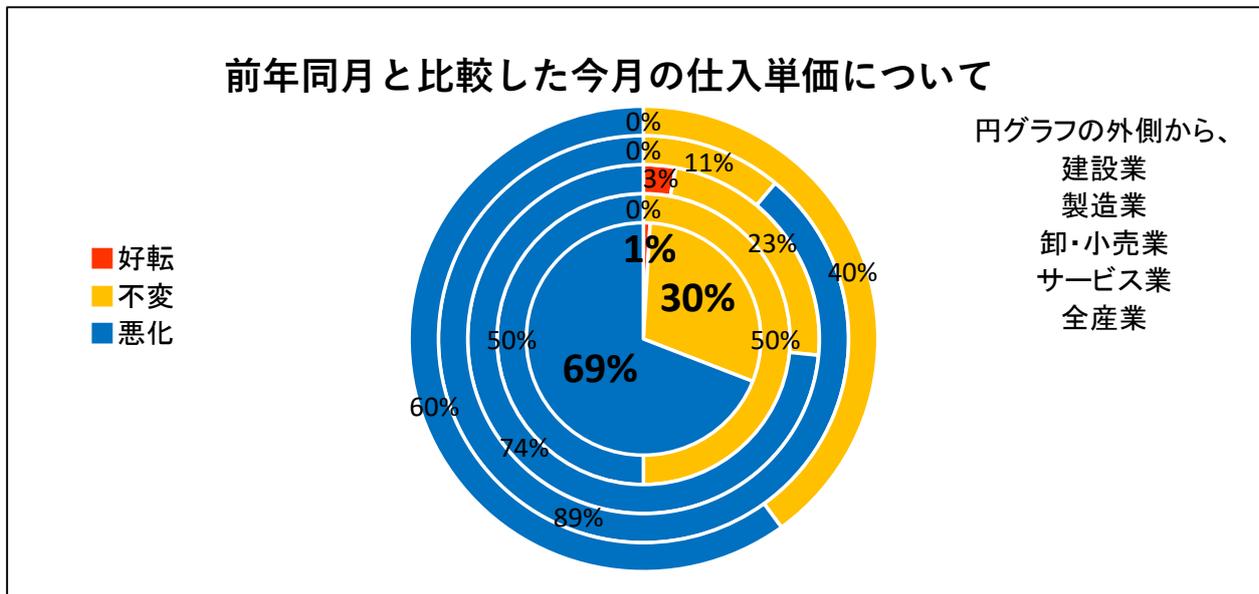
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲26.8	▲20.2	▲14.3	▲20.8	▲21.4	▲14.5	▲24.5(▲19.6)
建設	▲29.4	▲25.0	▲19.0	▲30.0	▲28.5	▲20.0	▲16.0(▲23.8)
製造	▲16.6	▲30.4	▲6.6	▲28.0	▲32.0	▲29.6	▲44.4(▲32.0)
卸・小売	▲39.2	▲19.2	▲16.2	▲36.1	▲21.6	▲17.6	▲41.1(▲35.1)
サービス	▲15.3	±0.0	▲15.9	△5.8	▲6.8	△12.5	△12.5(△13.7)



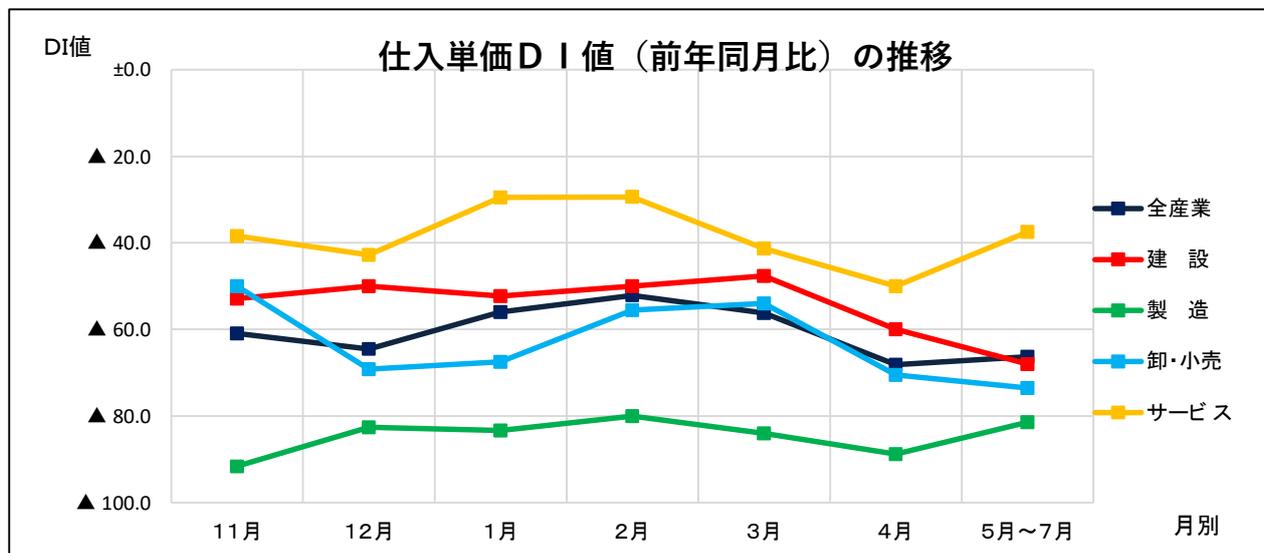
【仕入単価について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲68.1(前月水準▲56.2)となり、マイナス幅が11.9ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲66.3(前月水準▲58.0)となり、マイナス幅が8.3ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

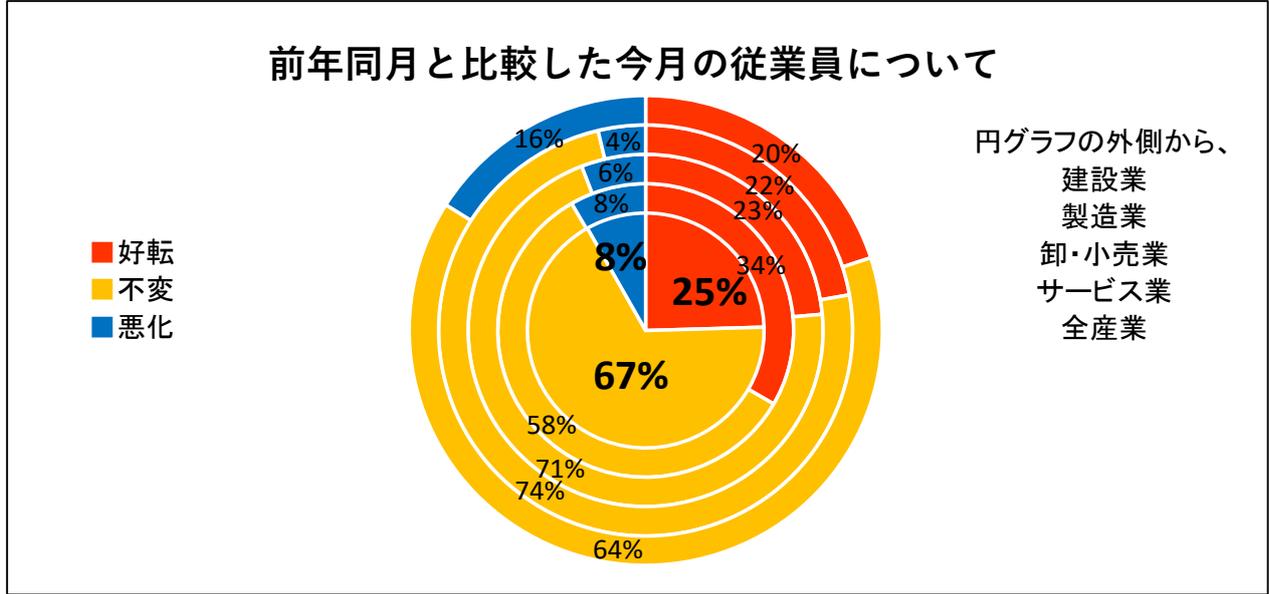
	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲60.9	▲64.5	▲56.0	▲52.1	▲56.2	▲68.1	▲66.3(▲58.0)
建設	▲52.9	▲50.0	▲52.3	▲50.0	▲47.6	▲60.0	▲68.0(▲57.1)
製造	▲91.6	▲82.6	▲83.3	▲80.0	▲84.0	▲88.8	▲81.4(▲80.0)
卸・小売	▲50.0	▲69.2	▲67.5	▲55.5	▲54.0	▲70.5	▲73.5(▲64.8)
サービス	▲38.4	▲42.8	▲29.5	▲29.4	▲41.3	▲50.0	▲37.5(▲31.0)



【従業員について】

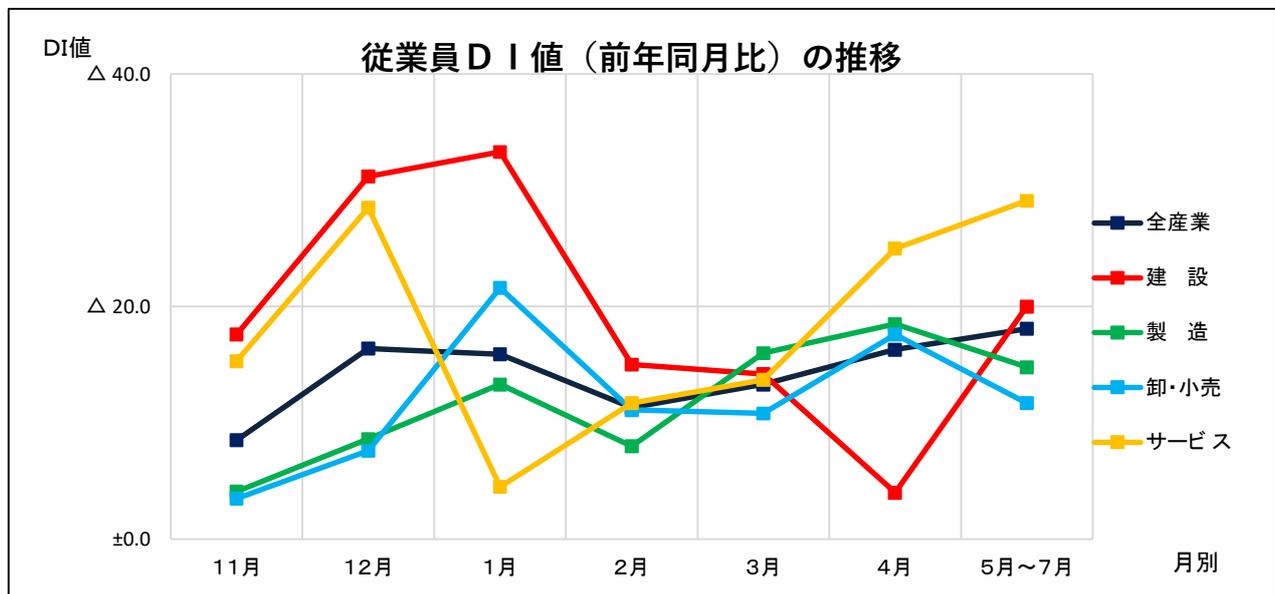
○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△16.3(前月水準△13.3)となり、プラス幅が3.0ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△18.1(前月水準△15.1)となり、プラス幅が3.0ポイント拡大する見通しである。



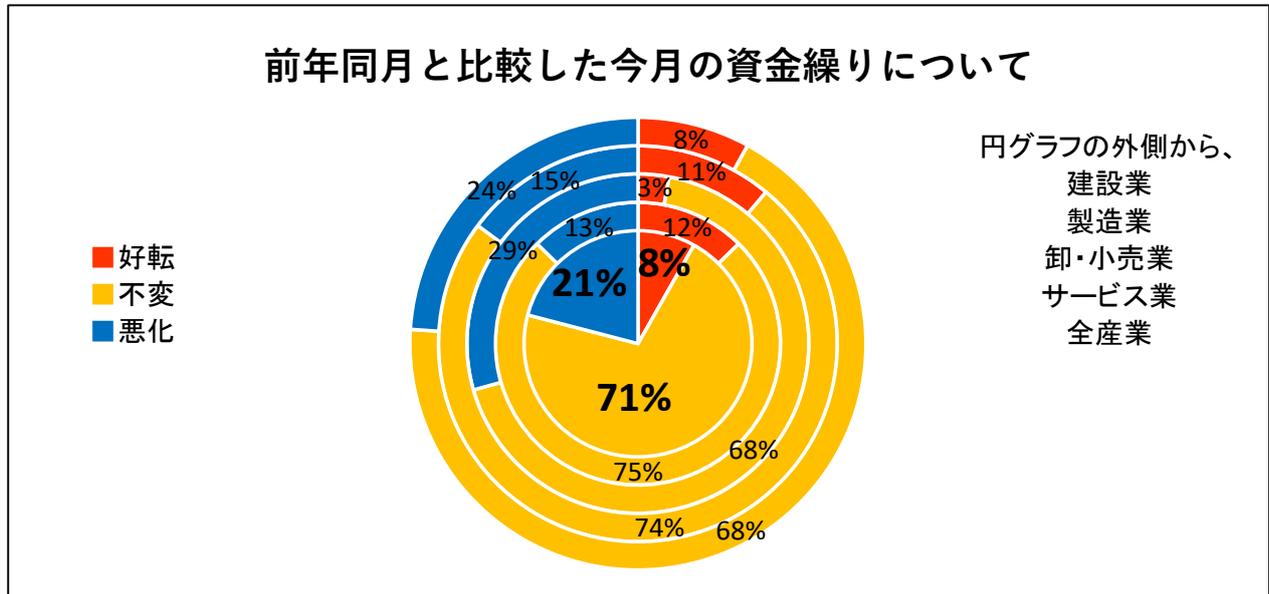
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	△8.5	△16.4	△15.9	△11.3	△13.3	△16.3	△18.1(△15.1)
建設	△17.6	△31.2	△33.3	△15.0	△14.2	△4.0	△20.0(△19.0)
製造	△4.1	△8.6	△13.3	△8.0	△16.0	△18.5	△14.8(△4.0)
卸・小売	△3.5	△7.6	△21.6	△11.1	△10.8	△17.6	△11.7(△16.2)
サービス	△15.3	△28.5	△4.5	△11.7	△13.7	△25.0	△29.1(△20.6)



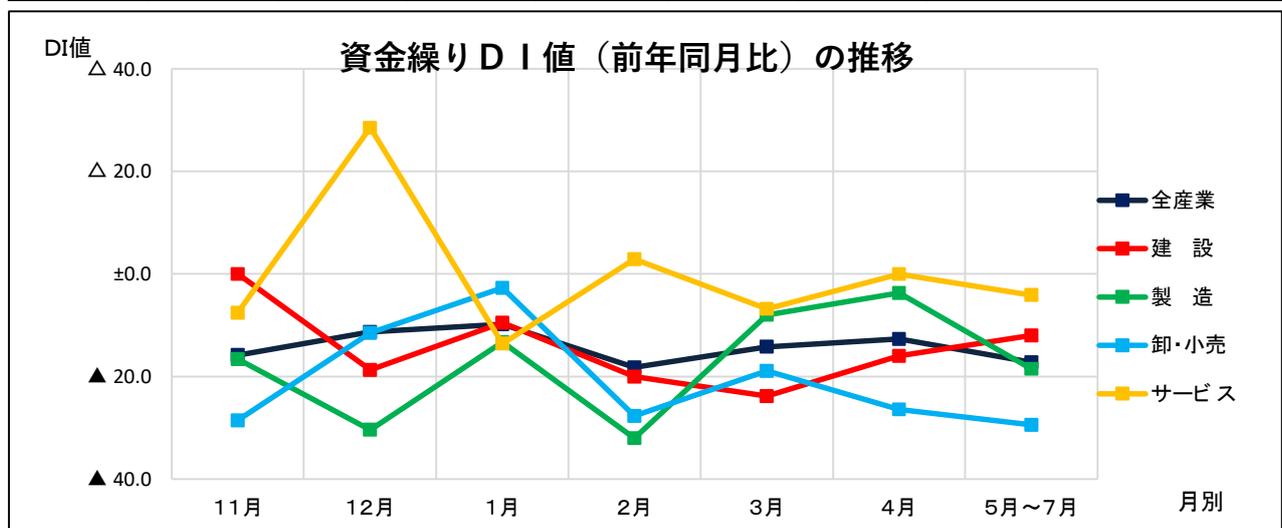
【資金繰りについて】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が1.5ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲17.2(前月水準▲10.7)となり、マイナス幅が6.5ポイント拡大する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和3年		令和4年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月~7月(4月~6月)
全産業	▲15.8	▲11.3	▲9.8	▲18.2	▲14.2	▲12.7	▲17.2(▲10.7)
建設	±0.0	▲18.7	▲9.5	▲20.0	▲23.8	▲16.0	▲12.0(▲14.2)
製造	▲16.6	▲30.4	▲13.3	▲32.0	▲8.0	▲3.7	▲18.5(▲20.0)
卸・小売	▲28.5	▲11.5	▲2.7	▲27.7	▲18.9	▲26.4	▲29.4(▲24.3)
サービス	▲7.6	△28.5	▲13.6	△2.9	▲6.8	±0.0	▲4.1(△17.2)

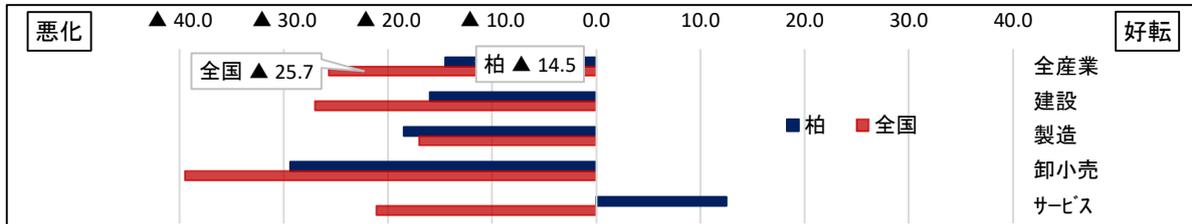


全国（CCI-LOBO）との比較

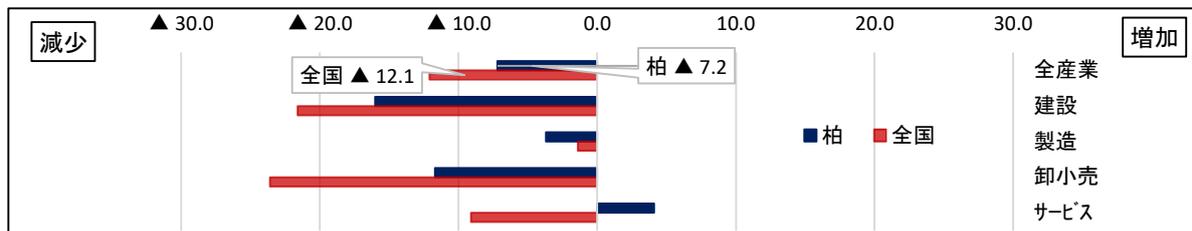
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

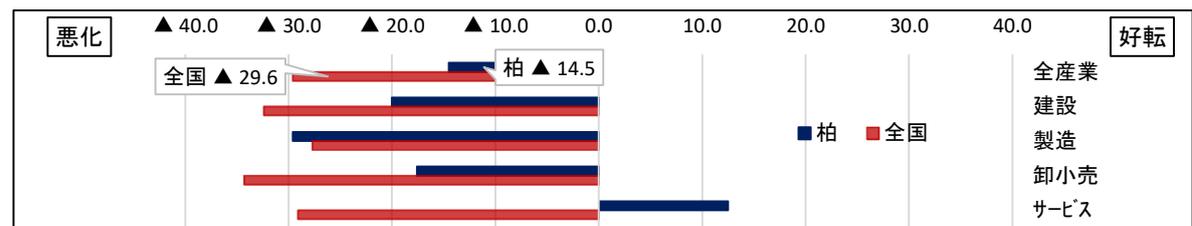
【業況DI】



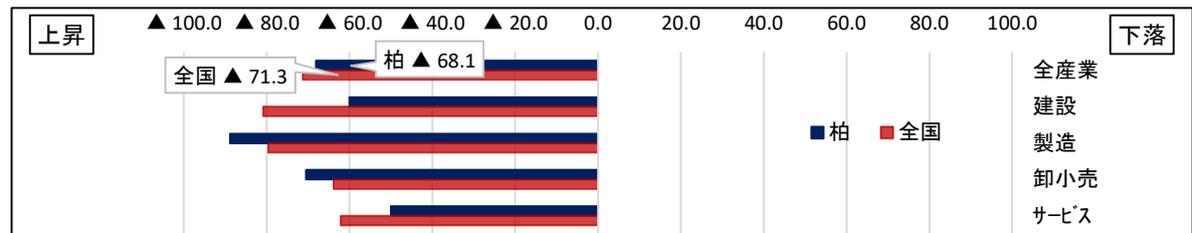
【売上DI】



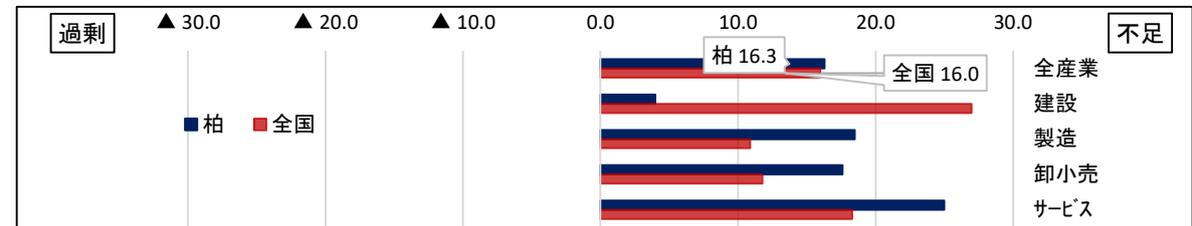
【採算DI】



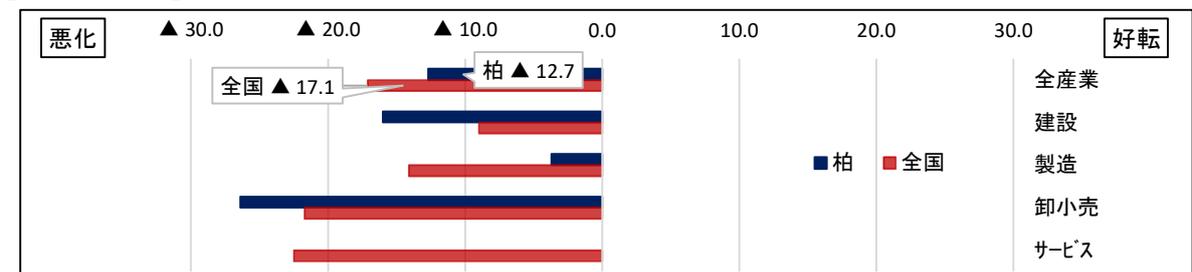
【仕入単価DI】



【従業員DI】



【資金繰りDI】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概況	業種
建設業	材料費の高騰に困惑。	畳工事請負・畳製造販売業
	人手不足はいつも変わらない。このまま減らずに維持できれば良いが、外仕事で暑い日が続く熱中症に気をつけることを考えると、仕事のはかどりに大きく影響が出るのは目に見えている。また材料の高騰は歯止めがきかず、資材など数か月前より3倍から4倍になっているものが、大きく利益を圧迫している。	とび
	弊社の事業の2本柱は賃貸住宅の原状回復リフォームと、再販業者からの中古物件のリフォームですが、コロナ禍による人の動きの鈍化で原状回復事業面が影響を受けている。一方、再販向けリフォーム市場もカネ余りによる売却不動産の高騰で、事業化の目途が立たない業者が多く、苦戦しています。	リフォーム工事
	資材の高騰に先行き不透明である。受注単価も上がるといいのだが、入札絡みでは難しいところです。	管工事業
製造業	依然としてコロナ禍による大きな影響を受けており、業績の回復の見通しが立っていない状況です。また、昨今の国際情勢の影響から、仕入値の上昇が続いており、利益を圧迫しています。	電子応用装置製造業
	新型コロナの影響で落ち込んでいる口紅容器の受注に変化はないが、医療品容器に関しては海外工場が稼働し始めたようで、ぽつりぽつりではあるが発注がかかるようになった。	プラスチック加工
	まん延防止等重点措置の解除により売上は増加傾向にあるが、原材料やユーティリティ費用の増加等が大きい。今後もコロナやウクライナ情勢や為替市場の影響が大きいと思われる。	酒類製造業
	原材料アップ、半導体不足による電子部品の入手性で苦労する年となりそうである。	機械・同部品製造業
	今年の4月は、大型物件があり好成績だが、来月以降の見通しは不透明。各種仕入部材の値上がり収まりそうもなく、自社製品の価格改定を行うタイミングを競合他社の動向も見ながら見計らっている。	化学工業
	3、4月はメーカーが紙の15%値上げを一斉に発表。このままでは印刷物の納入に利益が生まれにくい。今後、紙の値上げに乗じた価格交渉がどれだけできるかが課題である。	印刷業
	主力製品の売上は昨年より好転しているが、原料・光熱費は引き続き高騰し収益を圧迫している。	鉄鋼業
	社会の変化、ニーズに伴う対応が増え、中小企業には人材・資金的に厳しい。	金属素形材製品製造業
	材料仕入価格値上げが増加。価格転嫁をできず売上減少。業務の見直しが迫られる。	印刷業
	同居家族が新型コロナウイルスに感染し、濃厚接触者として社員が休むケースが数人出てきた。本人が陰性でも出社が出来ず、一部リモートで対応できる業務は切り替えたが、製造現場はそうはいかず、生産に影響が出ている。社内でのクラスターを回避すべく、感染対策の徹底をしているが、家庭内での感染についてはどうしようもなく、早く鎮静化することを祈るしかない。	自動車付属品製造業
	仕入価格が高騰している。	金属加工業
	コロナ自粛による士気の低下・営業活動の制限による引合いの減少。	業務用機械器具製造
半導体が入らず、製品が作れない状況が続いています。	設備関連製造	

【業種別】業界内トピックス

	<p>電子部品の高騰は円安による海外半導体が2段階、3段階で値上げて更に高騰し収まる気配なし。また、長納期化の業界予測は更に悪化の傾向。戦争による原材料のSTOPも懸念される。受注好調だが売上減が続く。</p>	電子部品等製造業
卸・小売業	<p>市内の某観光地で販売している商品が好調。</p>	洋菓子店
	<p>コロナのマイナス影響は、当然あるが、新規でカバーしている。</p>	各種商品卸売業
	<p>テナント仕入原価率が上昇。</p>	各種商品小売業
	<p>細かい一つ一つの仕入値やその他の経費が上昇し、その都度、販売価格を見直さなければならなくなった。</p>	各種商品小売業
	<p>急激な電気料金の高騰が大きなコスト高になっている。</p>	各種食料品小売業
	<p>外出制限もなくなり、旅行・お出掛けの意識が強まった結果、衣料は回復の傾向。母の日は、今年の「会えないのでプレゼントを贈る」から「会いに行く」にシフトした模様で、配送のフラワーギフトは苦戦。ネットスーパーの利用も減少傾向。</p>	大型小売店
	<p>新型コロナウイルスの影響で商品の納期が数か月以上遅延、そこにウクライナ侵攻による物価高で仕入商品自体が急騰している。さらに上海のロックダウン、米国西海岸の貨物滞留、豪州の洪水、黒海沿岸の封鎖等により港湾地区の貨物滞留が危機的な状況になっている。また過度な円安進行を止める術が無い日銀政策により、超コストプッシュ型インフレの猛威に晒されている。日銀は黒田総裁が続く限り、金利を上げられないので夏から冬にかけてカオスになると思われる。</p>	卸売業
<p>弊社は繊維卸商社ですが一時的に、産業資材全体の需要が高まり、供給が不足しているところへ、原材料・加工費全般の値上げが行われている事はマイナス要因。ただし弊社の実績は前年度・前前年度はもちろん、コロナ前の売上よりも本年度は大幅に伸びつつある。製造業全般を見渡しても、生産の引き締め等は行われている様には思えない所を好材料と捉えている。ただし、現在の好況は早晚(半年~1年)くらいでしばむ可能性を弊社では考慮し(恐らく、コロナ前の水準に戻る)、小規模なりセッションに備えて内部留保を高める努力と、新規事業のより一層の拡大を狙った商品開発、新規販売先の確保に努めています。現在の心配はロシア・ウクライナ戦争の帰趨と新型コロナの感染者の高止まり、中国の台湾に対する動きの3点です。この成り行き次第では、為替の大幅変動や原油・原材料の高騰など、いくつか不安要素を感じる。</p>	繊維卸売業	
<p>売上は増加していますが、従業員数は不足。コロナの影響で3、4月は欠勤も多く、大分苦しい展開でした。ウクライナ問題での価格上昇もですが、上海ロックダウンの影響が意外と大きく、原材料が入って来ないという話がフォークリフト業界でもあります。今年の6月以降の見通しはかなり厳しい物だと感じています。アメリカの四半期GDPがマイナスだったのも、そりゃそうだろうなという感じですし、世界的な恐慌が来てもおかしくないのかなと思います。物流業が完全に止まる事は考え辛いですが、何とか乗り越えたいと思っています。円安は業界的には追い風です。</p>	産業機械販売	
<p>サーモンなどのフード原材料の価格高騰が続いており、今後価格転嫁せざるを得ない状況となることが予想される。コロナ禍が落ち着いてきつつあるが、景況感の好転はまだ実感がない。ゴールデンウィークもさほど客足は伸びなかった。</p>	ペット用品小売業	
	<p>円安の影響は深刻です、部材・人件費高騰は厳しい。</p>	ソフトウェア業
	<p>2年前の学校一斉休校の影響がまだ残っており、生徒が集まりにくい学年はあるが、ここきてようやく体験希望から新規入会の動きが活発になってきた。何とかこのまま落ち着いてくれることを願うばかり。</p>	学習塾
	<p>4月も接待や宴会需要はまだ回復せず、平日夜は依然として厳しい状況が続く。</p>	日本料理
	<p>燃料の高騰が利益を圧迫しているが、運送運賃に転嫁できない状況が続いている。</p>	一般貨物自動車運送業

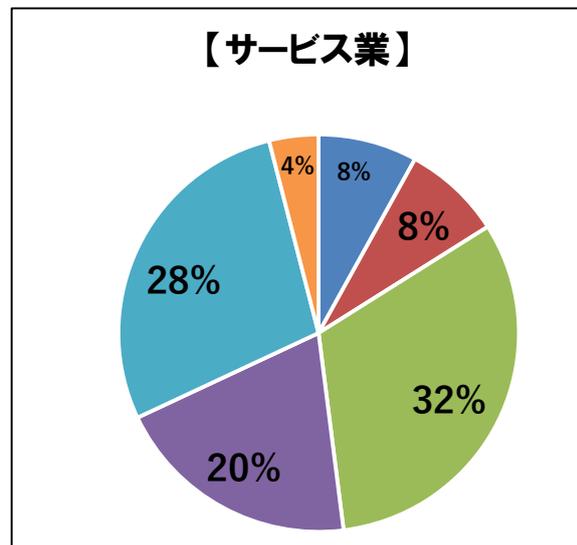
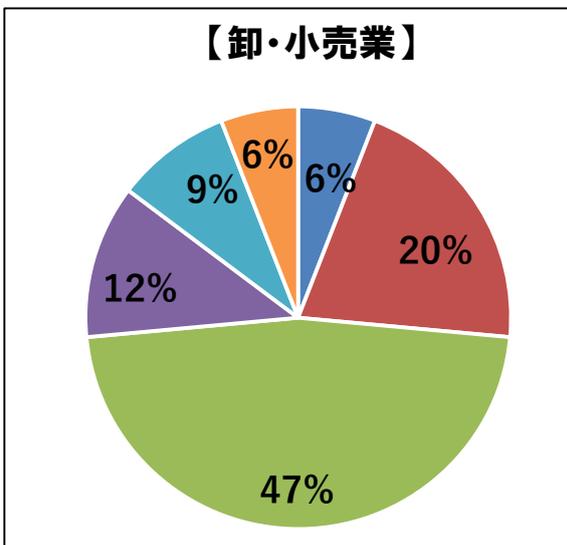
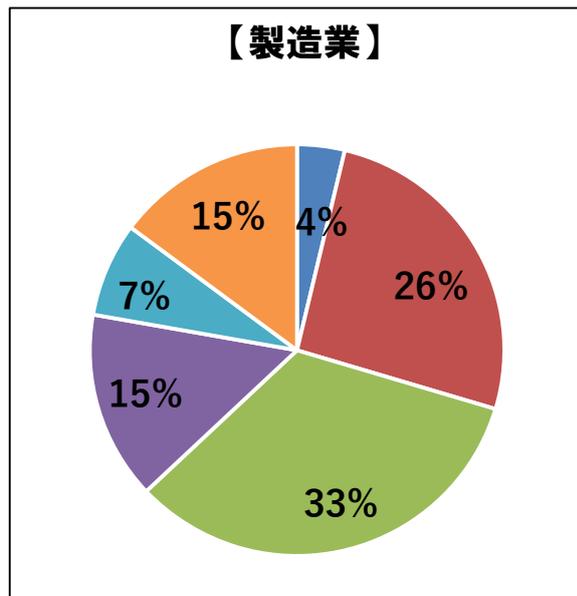
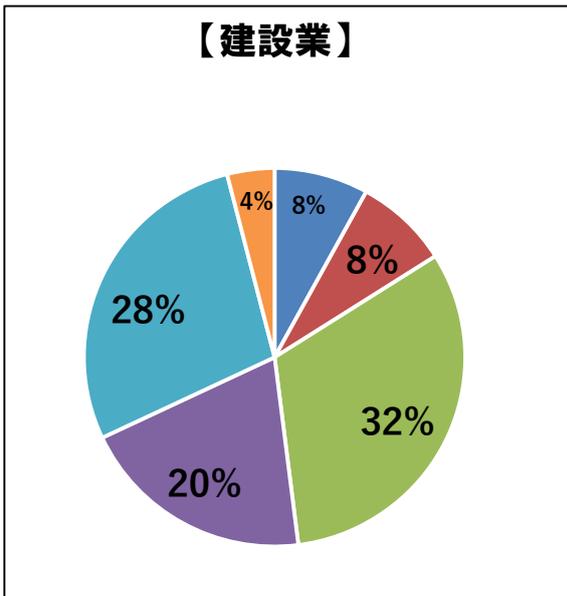
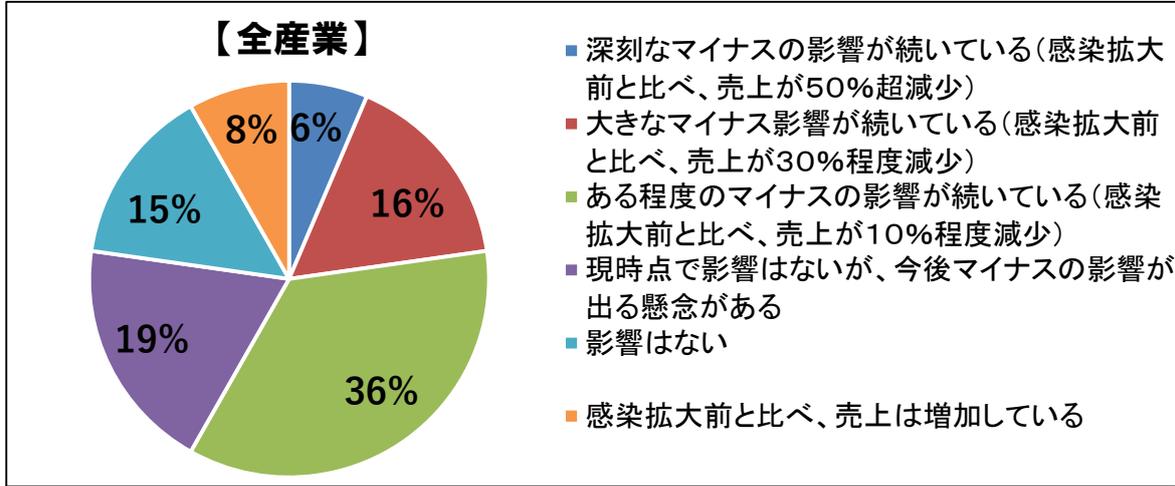
【業種別】業界内トピックス

サービス業	購入の問い合わせは堅調。一方、売却物件は減少している。材料高に連動して販売価格が上昇しており、これからもっと高騰しそう。	不動産管理業
	不変と答えていますが、長い目で見れば業界は下落のトレンド入ると考えます。	税理士
	新型コロナウイルス感染症感染拡大や収束の見通しが立たない状況が2年半に及び、withコロナにおける地域経済の活性化について検討する場を商工会議所を中心として作っていただきたいと思います。	情報処理・提供サービス
	柏まつりの中止は良い判断です。中途半端に1日やっても仕方ないです。	不動産賃貸業
	数件の顧問業を生業としているが、提携先が安定しているため堅調に推移している。	専門・技術サービス業
	ドル高の影響で、コロナに追い打ちをかけてマイナス幅が増加している。	国際輸送業
	改善している要因は、イベントごとがコロナの緩和と共に増加している事によります。	室内装飾業
テレワークの常態化、お客様との対応もほとんどzoomで、しかし市場状況が掴みにくくなった。	経営コンサル業	

附帯調査結果

新型コロナウイルス感染症の影響について

○新型コロナウイルス感染拡大前と比べた、今月の売上について



調査要領

調査期間

令和4年4月20日 ～ 令和4年5月6日

調査対象

柏市内155事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	155	110	71.0%
建設	37	25	67.6%
製造	40	27	67.5%
卸・小売	44	34	77.3%
サービス	34	24	70.6%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 う3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 